文化・エンタメ

続・浜田雅功「黒塗りメイク」論争を再考する

「イエローフェイス」の白人タレントを日本人は笑えるか

赤尾千波　富山大学人文学部人文学科教授(アメリカ文学・文化専攻)

差別｜映画　2018年02月07日

印刷

吊り目、ほそ眉、出っ歯の「お手軽」東洋人メイク

「イエローフェイス」とは、前稿　で述べた「ブラックフェイス」同様、単に「黄色い顔」あるいは「黄色く化粧した顔」という意味ではない。白人俳優が、目じりにテープを貼って吊り目にし、眉を細く整えて作り上げた、ステレオタイプとしての「東洋人の顔」のことを言う。

浜田雅功「黒塗りメイク」論争を再考する――「ブラックフェイス」は、“忌まわしき過去の象徴”

アジア人自身が見ると、大変不自然なメーキャップであり、なぜアジア系の俳優に演じさせないのだろうと思われるが、「白人俳優のほうが……、クリシェ(常套句(じょうとうく))としての東洋人を心得ているから」(村上由見子『イエロー・フェイス――ハリウッド映画にみるアジア人の肖像』朝日選書、1993年、89頁)、クリシェ、言い換えればステレオタイプの「東洋人」として、より一層、誇張して演じることができて便利であったというのだ。

軍服を着た「害獣」――米プロパガンダに見る日本軍人

アメリカで、イエローフェイスの日本人が大量生産されたのは、第二次世界大戦当時のプロパガンダ作品においてである。

編集部から

「論座アーカイブ」開設のお知らせ
2023年07月21日

論座の更新を終了いたしましたサイトは7月まで閲覧できます
2023年04月26日

コメント投稿サービス終了のお知らせ
2023年04月21日

最新ランキング　週間ランキング

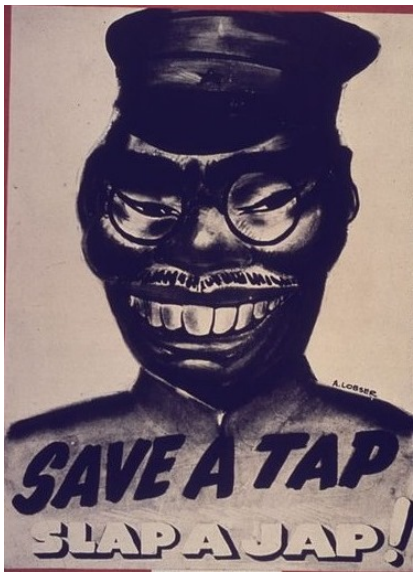
1 渡辺麻友の電撃引退に納得。彼女は「アイドルのプロ」だけじゃなかった
2 死後の世界をめぐる仏教と人々の“ズレ”～人は死んだらどこへ行くのか？
3 新潟親子遭難死は救えた命かもしれない
4 手記・上高地でクマに襲われた私の経験
5 在NY、新型コロナ感染体験記――「軽症」だったが初めて死を意識した
6 [1] 冷戦下、断絶と疎外の社会に変革を告げた～「サウンド・オブ・サイレンス」
7 事故原発に首相、作業員「怒ってるよ、菅直人、何しに？」
8 ダムに沈んだ村に最後まで住んでいた一

映画では、韓国系や中国系の俳優を起用することが多かったが、マンガやポスターなどに見る東条英機などの軍人は、イエローフェイスのイラストで描かれている。

【写真1】
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:You_Can%27t_Pop_a_Jap_with_Scrap_-_NARA_-_533976.jpg?uselang=ja

このころ、吊り目・ほそ眉に加え、メガネをかけていて、歯並びが悪い(出っ歯)、頭でっかち(低身長)というのも、イエローフェイスの日本兵、日本男性を描く際の必須構成要素となっていった。

【写真2】
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Rub_out_the_Axis%5E_-_NARA_-_534901.jpg?uselang=ja



【写真3】
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Save_A_Tap._Slap_A_Jap%5E_-_NARA_-_533908.jpg?uselang=ja

【写真4】
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:AntiJapanesePropagandaTakeDayOff.png

【写真5】
https://commons.wikimedia.org/

人の女性の物語

9 民主党政権が失敗に終わった本当の理由～悪いのは「マニフェスト」ではない

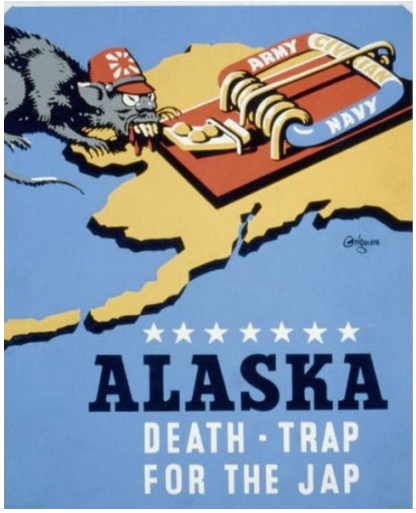
10 AIが感情と意識を持つことは可能か

もっと見る

wiki/File:US_propaganda_Japanese_information.jpg?uselang=ja

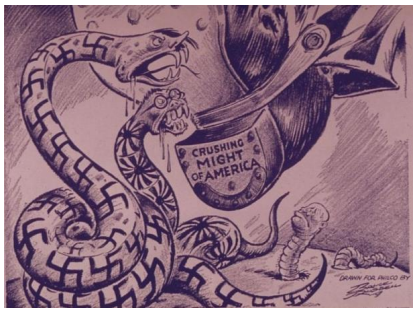
ネズミ、サル、ヘビなどの動物にイエローフェイスがのっかったイラストも描かれた。

【写真6】
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:%22Jap_Trap%22_-_NARA_-_515862.tif



【写真7】
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Alaska_-_death-trap_for_the_Jap_LCCN98510121.jpg?uselang=ja

【写真8】
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:%22Keep_talking_I%27m_all_ears%22_-_NARA_-_514812.jpg



【写真9】
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:%22Crushing_Might_of_America%22_-_NARA_-_514475.jpg?uselang=ja

【写真10】
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Crush_the_Snake_for_Victory%27s_Sake._Our_Production_Make_Much_More_-_NARA_-_534489.tif?uselang=ja

白人女性を襲おうとする姿や、「血に飢えた怪物」の姿も、好んで描かれた。

【写真11】
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:US_propaganda_Japanese_enemy.jpg

【写真12】
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Tokio_Kid_Say.png?uselang=ja

これらは、日本兵、日本男性を獣のように野蛮な敵とみなし、戦意高揚を図るために描かれたものである。「小柄でバカで弱い日本兵は、恐れるに足りない。しかし、白人女性を狙っていることを見逃してはならない！　女性を守るために、アメリカ男性は軍に志願して戦お

【写真13】
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:%22YOUR_BIT_CAN_HELP_D

う！」という方向性で描かれたのである。

RIVE_HIM_MAD%22_-_NARA_-_513615.jpg?uselang=ja

このロジックは、前述の映画『国民の創生』で提示された、危険な黒人から白人(特に女性)を守るために、KKKに入団しよう！というロジックと重なるものである。

戦後の映画に登場した「嗤える」イエローフェイス

第二次大戦後、日本人のイメージは一転し、ハリウッド映画では、コミカルな日本人男性をイエローフェイスの白人が演じることが一般化した。映画『ティファニーで朝食を』(1961)でミッキー・ルーニーが演じた日本人写真家、ユニオシは、見たことがある人も多いのではないだろうか。

【写真14】
http://www.imdb.com/title/tt0054698/mediaviewer/rm108665088

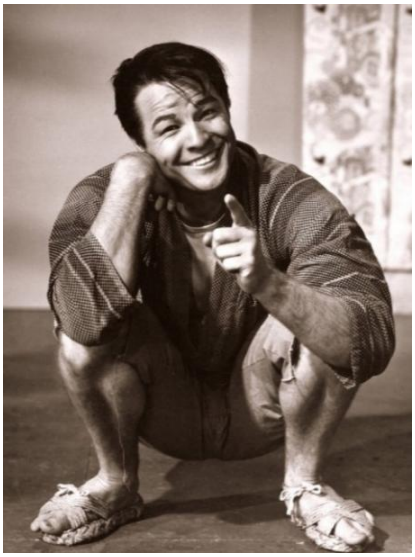
【写真15】
http://www.imdb.com/title/tt0054698/mediaviewer/rm1045161216

コメディ映画『底抜け 再就職も楽じゃない』(1980)では、白人俳優ジェリー・ルイスがイエローフェイスで日本人に扮しているのを見ることができる。

【写真16】
http://www.imdb.com/title/tt0082

【写真17】
http://www.imdb.com/title/tt0082

上記のほかに、イエローフェイスの白人が演じるコミカルな日本人キャラクターが出る映画としては、マーロン・ブランドが沖縄に住む通訳サキニを演じた『八月十五夜の茶屋』(1956)、アレック・ギネスが、白人女性に恋する日本人ビジネスマンを演じた『マジョリティ・オブ・ワン』(1961)などがある。こうしたイエローフェイスのキャラクターは、大部分が白人キャラクターのカッコよさを引き立てる、という役どころであった。戯画的メイクの白人が演じるステレオタイプのキャラクターを白人の観客が見て楽しむ——これはブラックフェイスやイエローフェイスの登場する映画の共通点といえよう。



【写真18】 サキニ
http://www.imdb.com/title/tt0049830/mediaviewer/rm2721844736

【写真19】 右がアレック・ギネスが演じた日本人
http://www.imdb.com/title/tt0055124/mediaviewer/rm152449536

現在、動画サイト等でこうした「イエローフェイスもの」の作品に出合うとき、白人俳優が吊り目メイクで演じた日本人キャラクターのなかに、私たち日本人が日本人の姿を見るわけはなく、日本人を戯画的に演じようとした白人の無神経さを見るばかりである。さらに譲って「人種差別という大げさなものでもないが、昔は、こんな“失礼な描き方”をしても許されたんだなあ(今ではもうだれもやらないけど)」という感じもする。

ブラックフェイスは「現在進行形」

しかし、「昔は……」と言ってすまされるのだろうか。浜ちゃんでよみがえったブラックフェイスを見るとき、決して、昔は許された、今はありえない、という話ではない、これは現在進行形の問題なのだ、と愕然とするのである。

バリエーションが、時代とともに迷走かつ“進化”(？)していった「イエローフェイス」に見る差別感情は、プロパガンダ作品やハリウッド映画の中だけのことではない。アメリカ国内でのアジア人、日系移民など、差別の対象となっていた人々はそこにいた——そのことも忘れてはならない。

日本国内にいる日本人が知らない(日本で公開されなかった映画はたくさんある)、吊り目、出っ歯、メガネ、低身長、などというステレオタイプとしての日本人を、いま、日本のテレビで白人タレントが真似したとして、笑ってすますことができるか——という問題と浜ちゃん問題は、似ていないだろうか。論

次の記事

関連記事

文化・エンタメ　**浜田雅功「黒塗りメイク」論争を再考する”**
赤尾千波　2018年02月06日

筆者

赤尾千波（あかお・ちなみ）　富山大学人文学部人文学科教授(アメリカ文学・文化専攻)
津田塾大学学芸学部英文学科卒。筑波大学大学院修士課程地域研究研究科、インディアナ大学大学院を経て、筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科途中退学。岐阜大学教育学部助手を経て現職。著書に『アメリカ映画に見る黒人ステレオタイプ——『国民の創生』から『アバター』まで』（富山大学出版会）など。 **研究室HP**、 **アメリカ映画に見る黒人ステレオタイプ』関連資料**
※プロフィールは、論座に執筆した当時のものです

ページトップへ戻る

朝日新聞社から
会社案内
CSR報告書
採用情報
記事や写真利用案内
新聞広告ガイド

デジタル事業から
デジタルサービス一覧
携帯サービス
Astand(コンテンツ販売)
法人向け配信
写真の購入案内
記事データベース案内
朝日ID

グループ企業
朝日新聞出版の本
朝日新聞出版(AERA dot.)
朝日インタラクティブ
朝日学生新聞社

各国語サイト (News in various languages)
The Asahi Shimbun Asia&Japan Watch (ENGLISH)
Asahi Weekly (ENGLISH/JAPANESE)
ハフポスト日本版 (JAPANESE)
CNN.co.jp (JAPANESE)

サイトマップ | サイトポリシー | 利用規約 | 特定商取引 | web広告ガイド | リンク | 個人情報 | 著作権 | お問い合わせ

掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。
Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.